島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 1 【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	Ⅱ
戦略 1 教員の業務の見直しやサバティカル制度を活用するなど研究時間の確保に努めると共に、外部資金及び科学研究費補助金の獲得に対する給与へのインセンティブの付与等、教員の研究環境を改善する。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①研究専念教員（仮称）制度を設定する。 ②バイアウト制度等を導入する。【⑭-1-①】 ③研究時間の確保や教員の研究環境改善の結果、教員あたり査読付き論文数を 1.05 編とする。【⑭-1-①】	教員が研究に専念するリサーチプロフェッサー制度を制定するとともに，バイアウト制度（競争的研究費の直接経費から研究以外の業務の代行に係る経費の支出を可能とする制度）を構築した。	リサーチプロフェッサー制度やバイアウト制度など競争的研究費の制度改善に係る対応を進め、研究時間の確保、研究環境の改善を進める。

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 1 【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	Ⅱ
戦略 2 研究者を個々に孤立させないための研究体制の改善や研究費の配分等、若手・女性・外国人教員に対する研究支援を充実する。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①オープンイノベーション推進本部は学部・研究科と連携して、若手・女性・外国人教員が採用された際に、新規採用教員の研究環境を整備するため、次の支援を行う。 ・スタートアップ支援経費を配分する（医学部・病院、材料エネルギー学部を除く） ・本学の研究支援体制と制度について情報をまとめて、新規採用教員着任時に周知する。 ・若手教員に対して研究力向上に向けた FD 研修を実施する。 ②全教員の 10 年間の研究活動実績（論文、外部資金）の経時変化を調査して、研究活動強化の要因を分析し、方策を検討する。※2 ③オープンイノベーション推進本部は②の方策について学部・研究科と連携して、若手・女性教員に対して科研費獲得支援（アドバイザー配置による支援と調書ブラッシュアップ支援、あわせて 40 件）、財団などの研究助成情報の提供・フォローアップ・申請書添削などの支援（40 件）を行う。【⑭-1-③】 ④上記取り組みの成果として、令和 6 年度の科研費（若手、女性、外国人）の新規採択目標額 6,000 万円を達成する。	若手・女性・外国人教員 9 名にスタートアップ支援経費を配分した。 若手教員を主な対象として，英語論文執筆セミナーを開催した。（参加者 51 名） URA による若手，女性教員に対する科研調書ブラッシュアップ支援を 9 件実施するとともに，財団などの研究助成の情報提供・フォローアップ，申請書添削などの支援を 22 件実施した。	

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 1 【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	Ⅱ
戦略 3 シンクタンク機能を持ったオープンイノベーション推進本部の設置により、研究 IR を強化し、教員個々の研究を含め大学としての研究活動の状況を可視化した上で、メリハリを付けた研究基盤経費の配分方法を検討・実施すると共に、URA 等の支援を拡充して科学研究費補助金の採択件数、採択額の増加を図る。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①各部局はオープンイノベーション推進本部と連携し、学部が組織的に推進する研究分野・課題、それを基に大型外部資金獲得を目指す計画を 6 月末までに作成し、計画に対するロードマップを策定・実行する。令和 5 年度目標：大型の科研費や政府系外部資金を 2 件以上申請。 ②オープンイノベーション推進本部は年度毎に実施した「論文業績に基づく研究費配分」（令和 3 年度、令和 4 年度実施）の研究活動の状況変化との関係解析の継続と、若手を対象とした教員の 10 年間の研究活動実績（論文、外部資金）の経時変化を調査して、研究活動強化の要因を分析し、研究力強化・外部資金獲得強化に繋がる予算配分方法について立案する。【⑭-1-③】※2 ③オープンイノベーション推進本部は、科研費を含め競争的研究費獲得に関する説明会を、全学向け・文系理系向けなど部局と連携して 9 月までに 5 回以上実施し、研究費獲得支援制度の周知と活用を促進して競争的研究費の申請率および採択率を向上させて獲得額を増加させる。令和 6 年度目標：科研費採択件数 385 件、獲得額総額 620 百万円、一人当たり獲得額 847 千円。【⑭-1-③】	科研費を含む競争的研究費獲得に関する全学説明会を全 6 回開催（参加者合計 383 名）するとともに，録画動画の配信（各回平均閲覧数 89 回）を行った。 また，令和 6 年度申請に向けて「島根大学研究者のための科研費調書作成の教科書」第 2 版（日英版）を作成した。 科学研究費補助金の採択件数・採択額は，280 件・499,423 千円となった。（令和 4 年度：298 件・357,807 千円，令和 3 年度：321 件・517,768 千円）	全学説明会の開催，FLC モードの活用，若手研究者への積極的なアプローチの推奨，全申請者のブラッシュアップを行うことにより採択率の向上を目指す。

※2.経営状況の自己点検・評価結果に係る令和 5 年 1 月経営評議会の意見・助言を踏まえている項目

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 1 【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	Ⅱ
戦略 4 研究 IR を活用して本学の強みとなる融合研究領域を創出・発展し、プロジェクトセンターを再構築すると共に、プロジェクト毎に大型の競争的資金の獲得を図る。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①オープンイノベーション推進本部は、「競争的研究費支援アドバイザー制度」（年間を通じた支援）を活用して、科研費以外の外部資金について機関単位、個人単位で e-Rad により申請する研究者に対する申請支援を行う。令和 5 年度目標：3 件 3000 万円採択。	「競争的研究費支援アドバイザー制度」を活用して、科研費以外の外部資金について機関単位、個人単位で e-Rad により申請する研究者に対する申請支援を行った。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 1 【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	Ⅱ
戦略 5 全学における重点研究の選定において、SDGs 実現の観点から研究テーマを選定するなど、SDGs 実現を目指した研究を全学的に推進する。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①戦略的機能強化推進経費の SDGs・カーボンニュートラル推進枠の研究テーマのうち、令和 4 年度からの継続分 3 件に研究費を配分して支援する【独自-2-①②】 ②インパクトランキングの必須評価項目である SDG17「目標達成のためのパートナーシップ」に関する研究を強化し、低所得国または下位・中所得国の大学に所属する研究者が一人以上共著者である国際共著論文数を、令和 4 年度実績 60 報の 20%増である 72 報生産する。	脱炭素化，SDGs 実現の観点から本学の重点研究テーマとして，戦略的機能強化推進経費（SDGs・カーボンニュートラル推進枠）で令和 4 年度からの継続分 4 件に研究費を配分した。 インパクトランキングの必須評価項目である SDG17「目標達成のためのパートナーシップ」に関する研究を強化し、低所得国または下位・中所得国の大学に所属する研究者が一人以上共著者である国際共著論文数を 38 報生産した。（令和 4 年度 60 報）	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 1 【大学における活動基盤として研究力を高める】 学問的興味・関心に基づいた多様な研究と研究環境の整備を推進し、教員個々の研究力を高め、大学の強み、特色を活かした研究領域を発展・創出するなど、知の拠点として活動基盤を強化する。	Ⅱ
戦略 6 医学部附属病院再生医療センターが有する細胞製造及び調整室を活用し、本学初の医師主導治験を目指す等、臨床研究の推進を図る。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①REC の投与を行う医師主導治験「低ホスファターゼ症小児患者を対象とした高純度間葉系幹細胞（REC-01）移植の安全性及び有効性を検討する臨床第Ⅰ/Ⅱa 相試験（FIH 試験）」、北海道大学との共同実施の治験「高純度同種間葉系幹細胞（REC）と硬化性ゲルを用いた腰部脊柱管狭窄症に対する無作為化パイロット試験」の件数（それぞれ 2 件、5 件）を増やすとともに、REC を用いた新たな治験に向けて取り組み（2 件）を行う。 ②REC によるミトコンドリア病への有効性を明らかにする。	REC の投与を行う医師主導治験「低ホスファターゼ症小児患者を対象とした高純度間葉系幹細胞（REC-01）移植の安全性及び有効性を検討する臨床第Ⅰ/Ⅱa 相試験（FIH 試験）」及び北海道大学との共同実施の治験「高純度同種間葉系幹細胞（REC）と硬化性ゲルを用いた腰部脊柱管狭窄症に対する無作為化パイロット試験」を実施している。 また，REC によるミトコンドリア病の有効性について特許を申請し、Q1 ジャーナルにアクセプトされた。	治験に向けて、院内の体制整備が必要である。

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 2 【世界で尖る研究を推進する】 本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する。	Ⅱ
戦略 1 内閣府地方大学・地方創生交付金事業「先端金属素材グローバル拠点の創出~Next Generation TATARA Project～」を着実に進捗させると共に、自走期間に向けて研究・財務基盤を強化する。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①NEXTA 専任・兼任教員の材料科学（総合）分野における Q1 論文を 19 編、総論文数 62 編を創出する【⑭-1-②】。 ②「NEXTA 国プロ獲得戦略会議」にて検討した国プロなど大型競争的資金獲得のための戦略に基づき、ロードマップを基にプロジェクトマネージャー及び URA の採用により体制を構築し、 プロジェクト推進室を中心とした情報収集、連携支援を強化して採択に繋げる。 ③NEXTA プロジェクト推進室を中心に、金属関連企業への研究営業活動を強化し、企業との共同研究件数 8 件、NEXTA 専任・兼任教員による外部資金獲得額 140 百万円を達成する。【①-1-①】	NEXTA プロジェクト推進室を中心に、金属関連企業への研究営業活動を強化し、企業との共同研究件数 12 件、NEXTA 専任・兼任教員による外部資金獲得額 144 百万円となった。	研究活動を論文生産や国プロなど大型競争的資金の獲得に結び付けていく戦略が必要である。

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 2 【世界で尖る研究を推進する】 本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する。	Ⅱ
戦略 2 エスチュアリー研究センターを核として実施している宍道湖・中海を含む斐伊川水系沿岸域を対象とした水域環境研究を本学の基幹研究として重点支援することにより研究力を高め、国内外から多くの訪問研究者や大型競争的資金を獲得することができるエスチュアリー研究分野のグローバル研究拠点を形成する。	Ⅲ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①エスチュアリー研究センターでは、外部資金獲得額 55,000 千円、国際共著論文 85 編、Top10%論文（直近 10 年間）16 編、論文数や被引用件数で上位となる国内の 7 大学（東京大学、京都大学、北海道大学、東北大学、九州大学、広島大学、島根大学）において 2 位以内を達成する。【⑭-2-①②③】 ②エスチュアリー研究センターでは、国際戦略ロードマップに従い、対面式あるいはハイブリッドの国際集会を 1 回以上開催し、また海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 5 名以上を達成する。またユネスコの IGCP にエスチュアリープロジェクトの申請を行う。	エスチュアリー研究センターでは、外部資金獲得額 68,740 千円、国際共著論文 119 編、Top10%論文（直近 10 年間）24 編、論文数や被引用件数で上位となる国内の 7 大学（東京大学、京都大学、北海道大学、東北大学、九州大学、広島大学、島根大学）において 2 位となり，令和 5 年度の目標を達成した。 また，日本，中国，韓国が参加する国際セミナーを開催した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 2 【世界で尖る研究を推進する】 本学の特色と強みである特定領域における世界トップレベルの研究を基幹研究として強力に推進し、グローバルな研究拠点を形成する。	Ⅱ
戦略 3 材料工学及び水域環境分野において、国内外からポスドク、短期・長期研究員を招聘し研究の活性化を図ると共に、その成果を国際会議やワークショップを開催することにより発信するなど、国際的研究拠点として世界からの認知を得る。	Ⅱ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①NEXTA 専任・兼任教員は、海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者招聘（5 名以上）や Web を活用した国際共同研究を推進し、海外大学との共著論文を 10 編刊行する。 ②NEXTA では、若手教員の論文作成を関係教員・推進室が支援し、論文数を増やす（論文数：令和 4 年度 0 編、令和 5 年度目標数 3 編）。 ③NEXTA では、兼任教員の材料科学分野における論文作成を、目標値設定・進捗管理および兼任教員増加により倍増させる（論文数：令和 4 年度 8 編、令和 5 年度目標数 16 編）。 ④エスチュアリー研究センターでは、海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者数 5 名以上を達成する。 ⑤エスチュアリー研究センターでは、Web of Science でのセンターの所属が明記された論文において、10 編の Q1 論文を刊行する。【⑭-1-②】 ⑥NEXTA では、対面式あるいはハイブリッドの国際集会・会議を 2 回以上開催する。 ⑦エスチュアリー研究センターでは、オンラインを含めた国際集会・会議を 1 回開催する。令和 6 年秋に松江で開催される国際集会の準備委員会を立ち上げる。	材料工学分野では，海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者を 6 名招聘するとともに，ロンドン大学の教員を招いた研究セミナー（Additive Manufacturing)、オックスフォードの教員を招いた研究会議、英国原子力公社の研究員よる研究セミナー（極限環境材料）を開催した。 水域環境分野では，海外からのポスドク及び研究員の訪問研究者を 8 名招聘するとともに，日中韓のオンライン国際セミナーを開催した。	

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 3 【産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する】 産学官金連携による研究を推進するための体制強化とテクノロジー・プルの研究を推進することにより、本学の研究成果の社会における応用や実用化に向けた取り組みを強化する。	Ⅲ
戦略 1 オープンイノベーション推進本部の設置により産学官金連携に関する URA 機能を強化し、地域未来協創本部と共同で多様な企業のニーズを調査、発掘、把握して本学におけるシーズとのマッチングを図ると共に、全学的にテクノロジー・プルの研究を推進する。その成果として産学連携による共同研究等を強化し、外部資金の獲得を増加させる。	Ⅲ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①オープンイノベーション推進本部は、「知的財産や社会実装を意識した研究テーマの設定を促すための知財 FD 動画」を作成する。 ②オープンイノベーション推進本部は、テクノロジー・プル型の研究を推進するために実行計画①で作成した動画の活用と教員訪問時に助言を行う。【㉓-1-①】 ③オープンイノベーション推進本部は、共同研究や受託研究などの経費と研究内容などに係る相談助言を教員に行い、企業との交渉を主導する。 ④令和 5 年度目標：①～③を通じて、テクノロジー・プル型の研究を 20 件実施するとともに、「科研、共同研究以外の外部資金獲得額」を基準値（平成 29 年度～令和元年度平均）から 20%増加（1,054,976 千円）、共同研究費を同基準値から 85%増加（347,123 千円）させる。【㉓-1-①】	テクノロジー・プル型の研究を 29 件実施した。（令和 4 年度：17 件，令和 3 年度：15 件） 科研，共同研究以外の外部資金獲得額は，1,159,829 千円（H29~R1 平均比 31.9%増），共同研究　318,106 千円（H29~R1 平均比 69.5%増）となった。	産学連携による共同研究等の強化，外部資金の獲得に向けて，URA 機能を強化し，更なる企業ニーズの調査と本学におけるシーズとのマッチングを進める必要がある。

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 3 【産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する】 産学官金連携による研究を推進するための体制強化とテクノロジー・プルの研究を推進することにより、本学の研究成果の社会における応用や実用化に向けた取り組みを強化する。	Ⅲ
戦略 2 企業の開発・研究担当者を招いたニーズ・シーズ発表会の開催等、企業担当者と大学教員や URA が直接お互いのニーズとシーズ等をマッチングできる機会を設ける。	Ⅲ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①企業の開発・研究に携わる担当者を招き、ニーズ・シーズ発表会（セミナー）や組織的な技術相談や意見交換会を 5 回開催し、企業担当者と大学教員や URA が直接お互いのニーズとシーズ等のマッチングを強化して、テクノロジー・プル型の研究を 20 件実施する。	令和 5 年度に新設した材料エネルギー学部と企業の交流会を 2 回開催し，合計 120 社が参加した。 また，URA による個別企業交流を 7 回実施した。	

島根大学ビジョン 2021 に係る令和 5 年度実績の検証について

研究ビジョン	
多様な基盤的・先進的研究や地域特性を活かした特色ある研究を推進すると共に、突出した世界トップレベルの研究領域の創出とその国際的研究拠点を形成する。また、卓越した研究力を基盤に産学官金連携による研究を強化することによりイノベーションを創出し、社会変革の原動力となる。	
	自己評価
目標 3 【産学官金連携を推進し、研究成果を社会へ還元すると共に研究財源を確保する】 産学官金連携による研究を推進するための体制強化とテクノロジー・プルの研究を推進することにより、本学の研究成果の社会における応用や実用化に向けた取り組みを強化する。	Ⅲ
戦略 3 オープンイノベーション推進本部が中心となり、本学の研究成果等を分析し、成果が企業価値になりうる研究を発掘し、その研究を基盤としたベンチャー企業を島根大学発ベンチャーとして創設する。	Ⅲ

令和 5 年度実行計画 【第 4 期中期計画を実行する計画】	令和 5 年度実績　検証	
	成果等	課題等
①オープンイノベーション推進本部は研究 IR 等を活用して、本学の研究成果を分析し、起業化の可能性のある研究成果を 3 件発掘する。 ②オープンイノベーション推進本部がスタートアップ支援窓口となり、起業に関心を持つ教員に対して起業の手引き書を作成・配布し、GAP ファンド・事業計画の検討相談は学外機関の支援制度へ接続する。令和 5 年度目標：GAP ファンド（広島 PSI 事業を含む）と事業計画相談を合わせて外部接続 7 件。 ③オープンイノベーション推進本部は、広島 PSI ecosystem（広島大学を中心に中国四国地方の大学等が連携して採択されたスタートアップエコシステム形成支援事業）の GAP ファンドへの本学研究者の獲得を支援する。令和 5 年度目標：申請 5 件、採択 3 件。 ④オープンイノベーション推進本部は、教員のためのアントレプレナーシップに関する公開講座を 2 回以上行う。令和 5 年度目標：参加者数合計 50 名。	本学の研究成果を分析し、起業化の可能性のある研究成果（研究途中含む）を 10 件発掘した。 オープンイノベーション推進本部がスタートアップ支援窓口となり、起業に関心を持つ教員に対して起業の手引き書を作成・配布し、起業相談を学外機関の支援制度へ 7 件接続した。 また，大学発起業セミナーを 2 回開催した。	